

## 令和元年度 第2回 伊賀市総合教育会議

1. 日 時 : 令和2年2月13日(木) 午前9時30分～
2. 場 所 : 上野東小学校 2階 大会議室・初期適応指導教室 他
3. 出席者 : 岡本市長  
谷口教育長、谷本教育委員、中教育委員、長谷教育委員、内藤教育委員  
  
宮崎企画振興部長、百田財務部長、田中健康福祉部長、山本建設部長、  
田中人権生活環境部長、東産業振興部長  
中林事務局長、山森学校教育推進監、清水生涯学習課長、  
中教育総務課長、林崎学校教育課長、笠井文化財課長、中岡上野図書館長  
円界青山公民館長  
澤田上野東小学校長  
(事務局) 児玉主査

### 4. 教育会議

- ・初期適応指導教室参観・外国人児童学習指導視察 9:30～10:20
- ・協議・調整事項
- 《1》外国人児童・生徒への学習指導について 10:20～11:00
- 《2》伊賀市ミュージアム青山あおやまうたのいえ讚頌舎の開館について 11:00～11:40
- 《3》その他

### 事務局長

皆様方にはお忙しい中ご参集いただきありがとうございます。  
ただ今から、令和元年度第2回総合教育会議を開催いたします。  
開会にあたりまして市長よりご挨拶をいただきます。

### 市長

改めまして、おはようございます。  
寒かったり、暖かくなったり、光の春というだけに春らしくなってきました。  
コロナウィルスという大変心配されているところなのですが、手洗い、予防第一ということですので、子どもたちにもしっかりと指導もしていただきたいと思います。  
さて、この総合教育会議なのですけれども、私と教育委員会が協議・調整することによりまして、教育政策の方向性を共有しながら一丸となってワンチームで事業を進めていくということでございます。  
本日は、令和元年度第2回目の総合教育会議ということで、伊賀市で増加します外国人児童・生徒の初期適応や学習指導等の対応について協議を行いまして、自立し共生する人づくりを考えていただくとともに、この度開館が決まりました「伊賀市

ミュージアム青山讃頌舎（あおやまうたのいえ）」について広く活用いただいて、伊賀市の文化振興を進める教育施策等についてご協議をいただきたいと思います。限られた時間ではございますがよろしくお願いいたします。

#### 事務局長

ありがとうございました。

会議に入ります前に、本日出席をいただいております皆さんの紹介をさせていただきます。

##### 《委員紹介》

昨年 12 月に新しく就任いただきました野口徹委員が初めて出席されていますのでご紹介させていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

本日それぞれの担当者も出席しておりますので、出席者を紹介いたします。

##### 《自己紹介等により出席者紹介》

まず初めに、外国人児童・生徒への学習指導対応についてということで、伊賀市が行っております児童への初期適応指導と児童生徒の学習の様子をご視察いただきたいと思います。

一旦教室までご移動をおねがいいたします。

#### 教育長

ちょっと行く前に私からよろしいですか、最初に初期適用指導教室というのをみていただきます。初期適用指導教室は伊賀市の設置した教室でございますので、最初、たとえばブラジルから日本に来て、その学校ではなかなか日本語が難しいので行くのが初期適用指導教室で約 50 日間そこで勉強して日本のことに慣れていただくというところでございます。それからもう 1 つ 10 時頃から上野東小学校の日本語指導教室を見ていただきます。それは初期適用指導教室を卒業しまして、それぞれの学校で日本語教室というのがありますのでその日本語教室ですので上野東小学校設置の日本語教室ということで普通の学級に入りながら午後の時間だけそこへ来て日本語を勉強するとかということで、その 2 つを見ていただきますので、最初見ていただくのが初期適用指導教室ということです。

#### 市長

という事は市内の各学校でそういう課題を持った子ども達をそこへ集めるという事ですか。

#### 教育長

そうです。ほとんどが上野西小学校の子です。東小学校の子はいませんね。

1 人。今日見学の子が 1 名。今日から上野東小学校で 1 名入っていただくので保護者の方が来ておりますので、その方がブラジルから来て 1 人行っていただきます。その子を入れて 4 人、小学生ばかりです。中学校も入るんですが今いるのは小学

生で二人が入管へ今日行くので残念ながらお休みなので、二人いますのでその授業を見ていただくという事でございます。退職校長がその指導に関わっていただいております。後、補足があったら言って下さい。

上野東小学校長

教育長のおっしゃっていただいた通りですので現場でご案内させていただきますのでよろしくお願い致します。

教育長

分からなかったらその場で校長先生か、いる者に聞いていただいて。よろしくお願い致します。風邪が流行っていますので、マスク必要な方は言って下さい。

【初期適応指導教室参観・外国人児童学習指導視察】

【協議調整】

事務局長

視察、お疲れ様でございました。

それでは協議、調整事項に入らせていただこうと思います。

外国人児童の初期適応指導教室等のご視察をいただきました。

この場に当上野東小学校の澤田校長が出席しておりますので、学習指導の現状等を報告いただきます。よろしくお願い致します。

上野東小学校長

≪資料により説明≫

事務局長

ありがとうございました。校長先生から外国人児童制度の対応について説明いただきました。

早速ではございますが、皆様方から授業の様子等につきまして感想など所件がございましたらお願いしたいと思います。授業視察の感想でも結構でございます。

今後の外国人児童生徒への学習対応、進路指導、自立支援等の方法についても結構でございます。ご自由に意見等を交わしていただきたいと思います。

よろしくお願い致します。

教育長

東小学校に初めて 1991 年ブラジルから5人の編入があったと、その時は大変です。どういう風にしようかっていう事で大変な所で。緑ヶ丘中学校にもその後来てその子たちが中学校で日本語が分からないという事で暴れる様なことがあって

生徒指導の事も大変な状況があって、まあ何とかこの学校で日本語指導をしていかなければいけないという状況に迫られて、ここが色々なノウハウを持っていたという事で、ほかの学校へも日本語指導をここへ学んでその学校ですという事で、やっと初期適用ができ、日本語教室ができ、県も人も配置しという事でシステムがきちんと出来て、今みたいに大学へ行く者もいるし、高校出て地元の向上へ勤める者もいるということで、その進路指導もできるようになってきたということで、伊賀としては長い間こうやって対応してきたので先進的な対応はできてきてるかなという風に思います。ただいくつか色々な課題もあるので、今日見ていただいた皆さんからご意見もいただきながら、もっと子どもにこんな力つけていかなきゃという事があればお出しただいて更にはその子ども達が定住していただいて働き手になっていただいて税金を収めてもらうというようなシステムを作っていく必要があるのかなあと思っているところです。

## 市長

今、谷口教育長がおっしゃいました長い指導の歴史を積み上げてきたという事ですから、そういう意味では先進的な事をやっていただいたし、そのノウハウをしっかりと築き上げていただいて実際にしていただくと、大変丁寧な指導をされているわけですし、なかなか大変だと思いますけれど、子ども達というのはそれぞれに可能性があって、未来があるわけですから、どのような国籍であっても、どのような状況であっても学習の担保はしてあげなければいけないという風に思います。それでは我々もしっかりと子ども達の未来を実現できるようなそういう手立てをしていく必要性というのを改めて感じさせていただいたところです。今、校長先生のお話の中で面白かったのは外国の方なんでしょうけども、「俺は伊賀人や」と言う人がいる話ですし、そしてそういう環境で育ってきた中から本当にすばらしい未来をつかんだ人たちがいるという事は、後に続く子ども達のお手本になることでしょうし、そんな事をしっかりとまた皆さんにも言ってあげていただきたいと思います。そんな中で県の会議に行ったりする時、伊賀の外国のルーツを持つ子ども達の支援学級のレイトが高いのではないかと、実人数が多いのではないかとという事がよく言われるところではありますが、結局は我々のスクリーニングが割としっかりと出来ているのではないかと思っていますけれど、じゃあどうしたらいいのという所をしっかりと考えていかななくてはいけないなあというのが一番の課題かなあと思ったりもします。

## 事務局長

委員の皆様から感想でも結構でございます。教育長、市長のご感想の方から色々な考え方をお示しいただいても結構なんですけど何か・・・

## 教育委員

教室を見せてもらって驚いたんですがあまりにも丁寧にマンツーマンで教えておられて驚きました。というのも私40年程前にフランスに行ったときにアリアズフランゼに行ってフランス語を教えてもらったんですけど、全部フランス語やったも

んね。怒られているのも分からなかったという話です。普通に生活していたら言葉は覚えてきます。ですから、これ見ていると、びっくりするぐらいの多国籍の人が日本に来ていますよね。だから子どものアイデンティティを生かすためには要するに日本語を彼らはすぐに覚えていこうと思うんです。だけれどもその人たちを生かすために特別に授業を作るんじゃなくて、給食の時間でもその国のオリジナルの言葉をその子たちから子どもたちに話しかける事によって、世界にはこれだけの言語があるというのが伊賀の子ども達も覚えていくと思うんです。そしたら、その国に興味を持つ人たち子どもがまた1人でも2人でも生まれてきたならば、伊賀自体がものすごく豊かになってくると思うんです。ですから給食の時間でも、おはよう、こんにちは、さようならだけでもいいけれども、いろんな言葉をその子たちに使ってもらおうと自尊心がもの凄くつくんじゃないかなあという風に思うですよ。そのことを今ほとんどの学校で外国の人が来てますよね。その子どもを利用しない手はないと思うんだけど、いかがでしょうか。急には無理か分かりませんが。

#### 教育長

帰りの時間にさようならをポルトガル語で言ったりというのは学級会でやってますけどね。

#### 上野東小学校長

集会の時間とか、もちろん今教育長がおっしゃっていただいた朝の会とか挨拶はさせています。それから水曜日の5時間目に仲良しタイムという仲良し学級の時間がありまして算数、国語じゃなくて、一堂に子ども達が集まってきまして7月ですと日本の七夕を紹介したり、この間11月は6年生にケニアの子が1人おりまして、ブラジルの子が3人いたんですけれども、自分の国の事を紹介したり、それは日本語で紹介するんです。そういった、今おっしゃっていただいたように僕たちもケニアの事を知らないし、その国の子に紹介してもらったり、そんなお互いの国の事を交流するという授業も見せていただきました。アイデンティティは大事ですが、どうしても子ども達は言葉が喋れないと遠慮したり、自分を低く見てしまうんです。でも、そうじゃないよと言う所で意識して多文化共生というか多様性が大事ななと思っております。

#### 教育委員

そう思います。そこから、新しい文化が生まれてきますのでやっぱり伊賀人だけではね、文化もやはり狭いですよね。これだけのたくさんの国の方が来てくれているのにこんな面白い所ないじゃないですかね。だから何かまた生まれてくる様に思います。だからこの子ども達をうまく育てているような気がしますので、今日の教室を見ていてとても楽しかったです。ありがとうございます。

#### 事務局長

他の委員様からはいかがでしょうか。

## 教育委員

今日高学年の学習するところを見せていただいて、比較的その日本語はもう達者に話す、聞くというのはできるんですけども、やっぱりそこから先の読むとか書くという所にどうやって繋げていくか、それが多分、学力向上の方につながる課題になってくるのかなと思うんですけど。外国人だから読み書きできないから学力が低いとかいう事も先程おっしゃられていましたけれども、その辺の底上げというのをどういう風にしていくべきのかということのもちょっと私の中では分からないですけど。特に小規模な学校、西小、東小であればまだ教員の方がたくさんいらっしゃるんですけど、小規模校でも結構外国人の方の比率も増えていますし、そのあたりで学力を上げていくのはどうしていったらいいのかというのを質問させていただきます。

## 学校教育課

今おっしゃっていただいた様に生活言語と学習言語というのは、ちょっとやっぱり違います。生活言語で東小学校の校長先生もおっしゃっておられましたが生活言語がいけるので大丈夫だろうと思っていても、学習言語はなかなか理解ができていない。これはもう学級の中で先程もおっしゃっていただいた様に各学校に分散している傾向がありますので、ここまでの東小までのスキルとかノウハウがすべてというわけではありませんが、先程言わせていただいた県の加配、それから市の加配等を活用していただきながら、各学校の方で教室の中で学習言語を学んでいただいているという状況です。時間はもちろん掛かりますけれども先程からも出ています、日本の子と一緒にあって共に学ぶ事で学習言語を学んでいくという事で積み上げていただいているところです。言っていたように学習の課題という点においては、やはり手間、時間が掛かる事ですので・・・。

## 教育委員

非常に難しいとは思いますがよろしくお願いします。

## 上野東小校長

漢検のように一定のレベル信頼のあるレベルにどこまで達しているかという日本語能力テストというのがあるんですけど、そういう風に物差しが必要かなと私は思います。それでチャレンジさせていかないと覚えているようで覚えていないとか、今どれぐらいまで進んでいるとかいうのがある程度基準の物差しに当てていかないと市内バラバラになる。バラバラでいいんですけども、受験に耐えられるのかという事で物差しが必要かなと思います。

## 教育委員

お子さんたちも、個々のレベルもだいぶバラつきがあるので統一して教えるというのは非常に難しいのかなと思います。同じレベルの子を例えば集めてやるとかそういうのも考えられたらどうかなと思ったりするんですけど。

ありがとうございます。

#### 教育委員

何よりもやっぱり一つ学校が出来るぐらいのお子さんたちがいてくれというのはびっくりさせてもらいました。またそのそれぞれの子ども達に対応できる体制を取っているというそこにもやっぱりびっくりしたんですけども、本当に言語がたくさんあるんですけども、そのたくさんの言語に対する対応はどうされているんでしょうか？

#### 上野東小学校長

対応はできませんので、日本人の教師による日本語による日本語指導という事になり出来ていませんので。最近またポケトークですか？翻訳機、携帯等指導にはなかなかですけど使いながらですね。分かりやすい日本語で指導するのが今のところは精一杯です。

#### 教育委員

先程、委員の話にもありました様に、いろんな国の言語を学べる、色んな国の事を知ることができるというのは、他の子どもにも日本の子どもにもとても良いことだなと私は思います。できるだけ、分けて授業もいいし、中に入って一緒に授業するもいいし、こういう風な言葉は色んな国の言葉があるので自分の国ではこういう風な表現をするんだとそういう風な形でどんどん前に出れるような環境があればそれもまた言葉が繋がっていくのではないかなと思うので、そこら辺また大変だと思うんですけども、よろしくお願いします。

#### 教育委員

本日見せていただいて、子ども達が戸惑っている子もいればワクワクしている子もいて、その子の今の状況にもよるんだと思うんですけども、その状況に応じた対応を細かくして頂いてる先生方にすごく大変な思いをして頂いてるなと実感する時間でした。2、3 教えていただきたいことがありまして、一応チャレンジの教室は50 日間という決まった期間の間にするわけですけども、その間のイメージするこままでの成果というのがどれぐらいに置かれていて、その成果まで持っていけるこの現状が、例えば今年度ですと60 何名の子ども達が50日卒業する時に、イメージの何パーセントぐらい習熟出来て次の教室にいけているのが現状なのかという事が1つ。

次には初期適用のチャレンジの教室を望まない、あるいは送迎の問題などでそこにはとても無理というご家庭もあると思うんです。それを各小さな学校になるかと思うんですけども、どのような対応をしていて、それは今現状としては、そこに来れないという事がどういう困り感に繋がっていくかという現状がもう1つお聞きしたいことでありまして、もう1つお聞きしたい事は、先程校長先生からもお話ありましたが、進路の指導をする時は子どもは日本語が分かるけど、保護者の方が分か

らない場合もあると、子どもだけではなくて学習を進めていく中で保護者の方の同意ですとか、協力ですとかこれはすごく大切なところだと思うんです。家庭学習にも繋げないとやっぱり学力が上がってこないの。この辺のところからもっと違う意味で課題がここにはあるんじゃないかなと思います。なので保護者に対する対応の課題ですとか、今やっている事、これからやらなければいけない事等教えていただけますでしょうか。

## 学校教育課

ありがとうございます。3点ほどご質問いただきました。1つ目の50日の中でどこまでという事については正直のところ子どもによってかなりの差が出てきます。場合によっては50日を待たずに40日とか35日で学校現場に戻るという事もあります。あそこでやるのはあくまで学校へ行った時に困らない基本的な学習、日本の言葉、それから生活するために最低限必要な言葉をまず学んでもらうと。ただ一方で各学校の方で日本の子ども達と一緒に教室で学ぶ事で習得しやすいというかスムーズに習得できるという面もありますので、基本的な力を身に付けて、それができた段階でもう現場に戻って教室の中で共に学ぶ事で成長していただくという風な考え方を持っています。

ただまあ母国でどこまで力をつけてきてくれるかによってもかなり差はありますので、それは初期適用教室の先生に見極めていただきながら日程を調整しているという状況です。

それから2点目の来られない方については実際に送迎の加減で来にくい方もおりますので、その場合については学校に直接入っていただく例もあります。その場合は各学校の方に県の巡回相談員さん等に回って頂いたりとか、東小以外にも県の加配、伊賀市で今のペースで12名ほど、非常勤でも6.0いただいておりますのでそれを大きな規模でない学校にも分散するというか配置をさせていただいておりますので、その方等を活用していただいて学校の方で対応していただいているというところ です。

それから3つ目の保護者の方への対応については先程もありましたが翻訳、通訳がかなり厳しい状況になって、同じ市役所の中の市民生活課さん等に協力を仰ぎながら、生徒指導の問題が起こった、色んな課題が出てきた、進路の問題が出てきたとなったら、市民生活課さんから派遣をいただいて対応頂いたりという事をしております。それでもちょっと数が増えてきていますので、先程言ったアプリとかその他の導入等を検討しながら対応しているというところ です。

## 教育委員

ありがとうございました。

対応していただいている先生もそうですし、現場では大変な思いをして頂いてると思います。教育長がおっしゃって下さったみたいに先進国であり、たくさんの生徒を抱えているからこそ色々な事に課題を持って進んでいきながらも更なる課題を解決していけるように色々取り組んで頂ければと思います。ありがとうございます

た。

市長

一つ教えてください。

このペーパー、たくさん国と言語が書いてあるこのペーパーはどこが出しているペーパーなのですか。

教育総務課

その資料につきましては現在市の市民生活課の方で把握している市全体の外国人の登録数の表になっております。

市長

どこが作ったの？

教育総務課

市民生活課です。

市長

分かりました。

事務局長

行政の皆さんにも出席いただいておりますので、外国籍の方、それから外国にルーツを持つ方々が増えてきているというのは伊賀市としても早急に取り組まなければならない大きな課題だと考えております。例えば関わり方、こういう風な関わりができますよとか、もしくは子ども達をこういう風な観点で教育していただきたいというようなご意見がありましたら行政の方々からちょっとご意見をいただきたいと思いますが何かございませんでしょうか。

先程、学校教育課長から通訳の方がどうしてもやっぱり足らなくなってという現状も報告させていただいたところでございます。その関わりであるとか各セクションでそういったことがありましたらご意見をいただきたいと思いますがいかがですか。

企画振興部

よろしいですか。来年度、実は総合計画を見直す時期に来ているわけですが、見直す基本方針の中に伊賀市の特徴であります多文化共生、要するに先程も見えていたたとおり6.26%の住民の方が外国人。市民16人のうちの1人、これは伊賀市の特徴であり、これを強みに変えていくというのが将来の伊賀市のあり方の1つであるという風に思いますので、総合計画の中に位置付けて具体的に色んな角度から行政のあらゆる方面からこの多文化共生のサポートというのを力を入れた施策としてやっていかなければならないと思っておりますし、位置付ける事を基本方針に定めております。一つ教えてもらって面白かったのがオチャンテムライカルロスさん

という方が実は私、教育委員会にいる時に奨学金を受けに来ていただきまして、伊賀市の奨学金の中でもちょっと優秀な子のささゆり奨学金というのを受けに来ていただいて上野高校の定時制から大学へいくときだったと思います。残念ながら近差で次点だった記憶があるんですけど、その方がこうして勉学に励まれて大阪大学の大学院に進んでいる。そこのお父さんがですね、市長がおっしゃったように伊賀人であるということを誇りにしてるということです。それからこの妹さんのオチャンテさんも、よく雑誌とかでも出てきますよね、大学とか研究の部分で、こういう方たちが伊賀からこういう教育を通じて、上野高校の定時制を通じて大学へ行かれて輩出してるというのは伊賀の誇りだなという風に思いまして、こういう方ともっと繋がって、伊賀市の外国人の子ども達の教育等をしっかりと考えていけたらすごいかないかなという気にさせていただきました。

## 健康福祉部

福祉部は子どもから高齢者までという所ところなんですけれども、まず保育所・保育園、幼稚園も含めての状況なんですけれども、市内に幼稚園、認定こども園も含めて33園ございます。それで総数約170名ぐらい外国に繋がりのある子どもが入園して来ております。

保育所、保育園は校区がございませんのでどこへ行かれてもいいんですけれども、やはり街中の保育園の方に入園されている外国籍の子どもが多い様な状況でございます。率としては総数2500名ぐらいおりますので6.7%ぐらい伊賀市の総人口と一緒に率かなという事でございます。それで私、今日小学校での指導を見せていただきまして、保育所から小学校へ、幼稚園から小学校へ入学するときですね、私も健康福祉部と教育委員会さんとがもっともっと繋がっていかねばならないなと実感いたしました。

発達に支援が必要な子どもというの繋がりを持たせていただいております。外国籍の子どもさんの中にも私どもの子ども発達支援センターというところがあるんですけども、そこが関わっている子どもも40名ぐらいおりますので、そういった意味からももっともっと連携をさせていただきたいなと思ったところでございます。それと中学校を卒業されて就職される子どももいてくれます。高校へ進学される子どももおります、その子ども達に将来は介護の現場に就いていただきたいという風な思いを含めて今介護の現場を持っておる社会福祉法人の皆さんと話をしております。

その中で今日もお話に出ました菊山さんにも来ていただいてですね、色んな形で外国籍の子ども達が色んな福祉の現場に興味も持っていただいて、ゆくゆくは就職もしていただけたらいいなという事で、少し取り組みも進めておりますので、また色々と情報交換もさせていただきながら取り組みを進めさせていただきたいなと思っております。以上です。

## 事務局長

ありがとうございました。時間も迫ってまいりましたが、皆様方からもう一度ご意

見等ございましたらお聞きしたいと思いますが。

## 教育長

私の方からよろしいですか。学校としては色々学校の取り組みや先生の取り組みがあるんですけど、やっぱり保護者と話をするには通訳がいるとか、ややこしくもめてくるとかですね、翻訳機でもそれは中々通訳できないので通訳さんがいるとか、地区懇談会に来ていただくと、そして外国の方も来ていただきたい、そして地域の方と話しをするという時にはどうしても通訳さんを頼ませていただかなきゃいけないという事で、言葉の大人への支援というか、子ども同だとある程度の事は、いける時があるんですけど、ただその部分の難しい事がいくつか出てきて、これは健康福祉部長のところへ通訳お願いしますと予算を圧迫して何とかお願いをしているというような状況もありますけど。

更には先程のアイデンティティというんですか、日本に住んでいると日本の言葉もあいまい、母国語もあいまいな子が出てきて、どっちの言葉でこの子考えているんやろというのが子どもの中にもみられる姿としてあるかなというのがあります。その子の国としてどっちで生きていくんだろうという事になると思うんですけども。それがどっちもあいまいな子どももいくつか出てきている状況もあるかなと。それからもう1つは進学で学校としたら進学は90%どこか行きますと言うんですけど、それは日本の子どもと同じですけど。高校へ行く、行ったら結局退学してしまうとか外国の子どもの中にもある、これは日本の子どもにももちろんございますが。その行く意味をきちんと教えていかないと、そしてそこで自分の目標なりを持たせていくキャリア教育として進学させるという事がこの子らにも必要なことで、なかなか入れる事で今まで一生懸命になってきましたけど、その先が退学してしまうという残念な事もあるので、そこら辺も課題が多いのかなという風に思います。また学校就学の子も達で地域で学校へ行ってないという事はないんですけど、行くんですけど進学となると退学してしまう子どもも出てくるという事もあるかなと。また、私たちとしては色々な課題があるので、それを学校だけでは無理なので市の色々な所へ頼りながら、県にも頼りながら進めていくという事が大事かなと、NPOの方も色々助けていただいているのでそのようなところも関係間とも含めて対応していくのが大事かなという風に教育委員会としては思っているという事です。

## 事務局長

市長の方からはよろしいですか？

## 市長

これだけたくさんの方から色々な人が来ていてすべて子どもさんがいるとは限りませんけれど、それは我々のある意味子ども達にとっても財産だと思うんですよ。世界は広い、世界は深いということを感じてもらえる様なそんなことが大事かなと、やっぱり伊賀時人であると同時に世界人にもならないといけないですし、国際交流協会や教育委員会など、現場色々な繋がり方、協力、コラボができ

と思うので、そんなことを考えてもらえたらいいなという風に思います。

#### 事務局長

ありがとうございました。

続きまして、協議・調整事項の2につきましては、昨年12月議会により承認をいただきました「伊賀市ミュージアム青山讃頌舎（あおやまうたのいえ）」の開館について、その活用や学習への可能性、伊賀市の文化の振興等についてご懇談をいただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に企画振興部より説明いたします。

#### 企画振興部

《資料により説明》

#### 事務局長

ただいま、この4月から開館いたしますミュージアム青山讃頌舎、それから文化振興ビジョン、伊賀市文化振興条例について説明がございました。特に青山讃頌舎につきまして教育、学習にどういう風に繋げていくかという事は、教育委員会としても今後検討していかなければならない大きな課題だと考えております。その辺につきまして皆さんからご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

#### 市長

博物館、美術館法にのっとるところまではいかんですけれど、初めての博物館、美術館ができたわけです。近隣の市町村を見ますと、亀山市の市立博物館があり、水口町といった時代から甲賀市には博物館があり、そして津はもちろん県のものがあったり、奈良や京都には色々あったりして、伊賀の確たる先人が築き上げたこの文化香る伊賀の地に初めて出来た、すったもんだの末に出来たという・・・、市条例をよく読んであるのか、文化振興条例ビジョンをよく読んだのか分かりませんが、すったもんだがございました。まあ、でも出来たらこちらのもんですから、しっかりとこれを生かしていかなければなりません。その為には学校教育の課程の中にこうした施設を訪れるという事をですね・・・高校生以下無料ですから是非取り入れていただいて、伊賀の小学校でも中学校でも一回は行ったぞと。伊賀は558 km<sup>2</sup>あって随分広い所でありまして、地域性も微妙に違う中でやっぱり1つの伊賀人のアイデンティティ、文化的イベントを共有する場所として、北の玉滝の子ども達も南の高尾の子ども達も山田の人も島ヶ原の人もここを訪ねるという事をしていただきたいと思いますし、それだけでなく、伊賀市は定住自立圏という伊賀市を中心として京都の南山城村笠置町、昨年になってからは奈良県の山添村も入りまして、三府県による広域要請を行っているわけですが、組長さん達と時々話をするんですが、やっぱり同じような課題を抱えた地域がしっかりと個性を生かしながら生き延びていく、またその子ども達を育てていく。これからは子ども達が伊賀だけではなくて近隣の子ども達も一緒になって一体感を持ったそういう風なところを作ってい

かなければいけない。やっぱりこれもそうですし、お互いの昔風に言うと遠足、今で言うエクスカージョンそういうものも色々な施設を使いながら、うちだけの施設ではなくて、我々も向こうへ行く、向こうの人たちもこっちへ来るという市内だけではなくて、そういう地域での交流というものも大事になってくるかとそんなことを思いながらお役に立てていただければいいかなという風に思います。文化というのは体感、五感これは食べることはあんまり関係ないか分かりませんが、体で感じる事にはいい事です。そしてそれを自分のものにしてまた新しい文化を生み出していくという非常に重要な場所が出来たという風に思っておりますので、是非協力携わる皆さん方には有効、有益に使っていただきたいなと思っております。バトルを続けてきて、やっと出来た、ああ良かったと思って、先週末ふっと、一つ忘れてたと思う事があって・・・、館長を置くのを忘れてたと思って。行政職に聞きますと指定管理をするので文都の方で出してもらわないといかんとか、いやいや行政でも出来なくはないとか、専門職でなくてアドバイザーぐらいでないとか、今更まあどうでもよろしいんですけども。しかるべき人にしっかりとこれからここだけにとどまらず中央館というのを作っていく必要があると思いますから、そういう時に向けてのアドバイスとか展示転化あるいは運用についての構想に携わっていただく・・・、心当たりがあって話はしているんですけど。

追加で言いますとミュージアム、これ最初は青山讃頌舎美術館（あおやまうたのいえびじゅつかん）だったんですけど、美術館なんて認めないという議員さんがいたんですが名前を変えてミュージアムしましょうと・・・これは瓢箪から駒でミュージアムというのは美術館博物館ですから何でも社会表記に使えるわけですから絵画だけではなくて立体造形、焼き物、組紐いろんなものをここでやっていったらいいなと思います。それは感謝をしておきたいと思います。

#### 教育委員

最近はおとんどの方が車に乗られるのですぐに行けるとおもうんですけども、車はないしここへどうやって行ったらいいかなという風に思うのですけれども、交通手段はどういう風になっているのでしょうか。

#### 企画振興部

駐車場は大村神社さんの駐車場を共用で使わせていただく事ができるわけですが、交通機関で行かれるのであれば近鉄青山町駅あそこから歩いてちょうど1キロ。ちょうどいいウォーキングというか散歩ぐらいのコースかなと、行き帰りで2キロですので、したがって電車を使っても青山の歴町の初瀬街道を歩きながら坂道を上っていただいて散策していただくとちょうどいいコースという風に選定いただいたらありがたいと思っております。

#### 市長

たとえば今度4月からにんまるというバスが出てくるんですけど、それは走るコースに入ってないんですか。

企画振興部

にんまるは上野地域のコミュニティバスですけど。行政バスが走ることは走ります。時間を合わせていただくのと、回数がちょっと少ないです。

市長

今は青山はどんなコース。

企画振興部

青山の青山支所、それから青山町駅、それと伊賀神戸駅、それから中をグルッと回って桐ヶ丘だとかズーッと走っています。

市長

じゃあ桐ヶ丘の回る中でバス亭作ったらいいのかな。元気な人ばかりじゃなくて、私そんな歩いて1キロも行けませんというおばあちゃんやおじいちゃんは必ずいると思いますし。

企画振興部

本数が限られてくるので、行ったら次3時間は帰って来れない。

市長

やっぱり穠月さんが選ばれた場所に穠月さんが作られた建物ですので、非常に彼の世界観、素晴らしい伊賀の風土を生かした施設になっているので、どこかの議員さんがそんな上野の町から1時間も掛かるところにと反対されてましたけど、やっぱり1時間の距離にあるその場所でなければできない雰囲気があるので、それは距離の問題でも時間の問題でもないと思うので、そういうところを大切にしていきたいなど、是非行ってください。

教育長

それは4月の22日まででも、今でも見られるんですか。

企画振興部

今は改修工事しておりまして、それから展示の準備に入ってきますので、4月22日はご案内をして開館記念で皆さんに来ていただきたいと思います。またご案内させていただきます。

市長

中は一応こんなところというのをご覧いただくのは可能だと思いますし、お茶室は開いてると思います。お茶室行ったら先代の奥さんが絶対お茶出してくれます。そこは伊賀市の施設なので。多分市内にあるお茶室の中で一番雰囲気のあるいいお茶

室だと思えます。

#### 企画振興部

建築家の方に言っていただきます。

この施設、写真を一番最後に付けていますが、建物だけでもすごい価値があるという事です。

#### 市長

ちなみに補足ですけど、いただいたコレクションで、種月明さんがお書きになったもの以外にその材料として彼の精神的な糧とした古美術品、例えばガンダーラの物であるとか中国の石仏だとか色んなものを頂戴致しました。それがあそこに置いてあるのではなくて、あるものもありますけど、良い物役に立つ物は京都の龍谷美術館、西本願寺の前にありますけれども、そこへ寄託されたのをそのまま引き継いで伊賀市が頂戴いたしました。その前に彼が館に寄贈してしまったのもあるので、あそこで展覧しておられる折々のガンダーラの作品というのは半分が種月さんが寄贈されたもの、半分がうちがいただいてお貸ししているものという事なので、今も並んでいるのでまたゆっくりご覧いただければと思います。

#### 事務局長

他にいかがでしょうか。

#### 市長

これはうちの展覧ですけど、市民の皆さんが美術作品を展覧する場にもしたいと思っておりますので、お気軽にまた見ていただくような、使っていただくようなところにしていきたいと思っています。

#### 教育長

取りあえず学校へ紹介させていただいて、それで学校の先生に見ていただいて、例えば遠足に行きますとか、一緒に子ども達と行く機会を作っていただくように・・・。

#### 市長

周りは遠足に行ってお弁当広げる場所もいっぱいありますから。

#### 事務局長

せっかく立派なものを作っていただいて開館するという事ですので学校教育だけでなく生涯学習、教育委員会の文化財関係もございまして、文化振興についても教育に十分役立てさせていただきたいと考えております。

次に協議調整その他につきまして、皆様から他にご意見等はございますか。

よろしいでしょうか。

では協議事項以外のその他の事項にうつらせていただきたいと思います。

市長

先程もちょっと申し上げましたが定住自立圏というのをやっております。連携していく同じ様な文化、伝統、歴史を持ったところ、伊賀、山城南、東大和定住自立圏、略して伊賀城和定住自立圏と言うんですけど。キャッチコピーが水と歴史で繋がる定住自立圏ということになっています。それはやっぱり必然があって一緒になってきたわけですから、まあ若干名張が残っていたり、その多くが残っていたりして心残りではあるんですけども。そういう風な形でしっかり共有して、交流を子ども達の上から固めていくという事が更に折れない地域、持続可能な地域を作っていくものとなる目標に思いますので地域学習を互いにするように私たち市紹介ではそうしましょうねという風に言っているわけですけど。教育に携われる皆さん方のほうから具体的なプランを持って実行にあたっていただきたいと思いますという風に思います。よろしくお願いします。また調整しなくてはいけないことは私も各組長に申し伝えますし、よろしくお願いします。

教育長

カヌー体験とか生涯学習の関係でいくつかはやるんですが、それをもう少し広めていく形で・・・。

市長

それとたくさん的人数はいませんが、教員交流などもやったらいいのかなと。なかなか少ない人員の中から交流するというのは大変だと思いますけど。

事務局長

他に皆さんから協議事項以外のその他の項目につきまして

教育委員

ふるさと納税この前新聞を見て、大したものだと。初めの時は480万ぐらいだったかな、話にならないという感じだったけど、ちょっと増えてきまして2億円近く入ったという事で、非常に魅力的なんだけれども。もうちょっと頑張って50億100億と。やれば出来るはずだから。使い道だけれど、ホームページを見たらパラパラとぎょうさんの所へ行ってしまうと、教育委員会としたらいつも集まった時にあれせーこれせー、要するに特化出来ないのかという考えで、その方が効果があると思うんです。ちょっとずつバラまいても薄まっていくだけでちっとも・・・使っているところはみんな大事やけど、出来たら特化して。50億ぐらいだったら使い道があるからそんなこと言わなくてもいいんだけど、まだ2億ぐらい。もうちょっと頑張ってそれぐらいの金額まで・・・いくはずですよ。

市長

あれ用途指定出来るんですよね。ただその受け口を設定するかどうかですね。街づくりに使うとか、何やらに使うとか項目があるけど、教育っていうのを設けないといかんんですよね。

教育委員

是非設けて・・・。

市長

今ないんでしょう。

企画振興部

いいえ、実は4つ大きく使う項目があります。ただ大きいので何にでも使えるようになっていて、1つは、市民の暮らしの安心安全を確保する街づくり。大きな柱ですけど。自立維持できる活力を創出する街づくり。観光農林何でもできます。未来を担う人・地域づくりを推進する街づくり。これも人権政策、学校教育、生涯学習何でも使っていただけます。次が一番大きい。特に指定がない、その他。

市長

教育というのも設けるべきだと思います。

企画振興部

今日だったら例えば外国人の子ども達の教育を推進する街づくりとかでも、もっと細かくして、そこへお金を集めようというような流れになってきています。

市長

行政職から決して言えないこと。私の感想から述べさせていただくと、いただいたものは色んなものに使いたいと。

教育委員

特化してないと薄まってしまう。結局、平等という事が平等でなくなってしまう。効果が出ないと思う。

市長

看板をどういう風に設定したらいいかというのは精査すべきですよ。

企画振興部

そういう形でそれが一般の人に受け入れられるテーマを作った市町村はたくさん集めることができるような傾向にあります。

教育委員

是非、もっと集めて下さい。

#### 企画振興部

今年は2億1千万ぐらい。去年より5千万ぐらい増えたわけなんですけれども、返礼品の数をかなり増やしたという事と、それからやっぱり泉佐野効果があったからだと・・・、それがこっちに流れてきている。

#### 市長

産業振興部長に聞こうと思っていたんですが、ふるさと納税の企業のふるさと納税があるんですよね。それがうまい事使えたらもう少し大きい額で・・・。  
まあ、そういう財源をどうするか、パイを広げないことにはね。パイの取り合いをしていたらあかん訳ですから。しかも、それを再生産になるようなね。

#### 企画振興部

2億1千万入ってきたんですけれども、現実的には返礼品のお金とか手数料代とか、返礼品は3割ですけど、残るのは約半分ですね。やっぱり大きなサイト、有名なところを使わない事には。楽天とかふるさとチョイスとか5つぐらい、アマゾン系も使ってます。だいたい手数料12%とか13%結構取られるんです。その代わり、返礼品の発送、発注そういうのも全部入れまして12%ぐらいの手数料となっております。

伊賀肉が1番人気があります。あとナベルさんが作った太陽光発電が結構・・・。  
110万ぐらいふるさと納税してもらわなければ出ないんですけど、40万ぐらいの返礼品なんですけど、今年は15ぐらいです。災害の時に使うポータブル発電というんですか、その太陽光発電です。

#### 教育委員

是非もっと増やしていただいて。

#### 企画振興部

色々工夫させていただいて、より集められるように。

#### 事務局長

色々ありがとうございました。事項4の「その他」につきまして、他にございませんでしょうか。事務局からどうですか。ないようでしたら、用意しておりました議論と皆さんからいただきました、事項4の「その他」の議論これで終了させていただきます。

色んなご意見いただきました。特に学校現場で見ていただいた、外国籍の子ども達、外国にルーツを持つ子ども達、こちらの方は伊賀市としましてもこれから色んな課

題を解決していかなければいけない。色んな天候を見ながら進めていかなければならない話題で、色んなご意見いただいて本当に今日は有意義な時間だったと思います。

また来年からも複数回総合教育会議を開かせていただきたいと思います。

その際は皆さんご出席いただきまして、色んなご意見またいただきたいと思います。

本日はありがとうございました。